（参考資料１）**水稲病害**の発生と総合防除（ＩＰＭ）技術（広島県中部）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ４月**中干し**田植期分げつ期幼穂形成期最高分げつ期成熟期育苗期 | ５月 | ６月 | ７月出穂期 | ８月 | ９月 |
| 水稲の生育 | 標高：３００ｍ品種：コシヒカリ |  |  |  |  |  |
| 管理内容 | 塩水選育苗箱施薬苗立枯病防除種子消毒 |  |  | 穂ばらみ期防除 | 出穂期防除カメムシ多発生または常発地の場合傾穂期防除 | 収穫 |
| 病害虫の発生・ＩＰＭ技術**中干し****中干し** | 【育苗期の病害】苗いもち【管理上の注意点】覆土をていねいに行う【基本技術】種子更新を行う塩水選を行う種子消毒を行う（温湯or薬剤）ばか苗病【管理上の注意点】出芽時の温度が、高温になり過ぎないよう（３５℃）注意発病株は抜き取る【基本技術】種子更新を行う塩水選を行う種子消毒を行う（薬剤）苗立枯病【管理上の注意点】育苗中の温度変化に注意しおれ症状の発生に注意しおれ苗のカビの発生に注意【基本技術】育苗箱を消毒する育苗施設の汚れを落とす育苗土は無病土を用いる苗立枯細菌病もみ枯細菌病【基本技術】種子更新を行う塩水選を行う種子消毒を行う（温湯or薬剤）【管理上の注意点】**発病苗を植えないよう注意**出芽温度が３０℃を超えないようにするしおれ症状の発生に注意しおれ苗の根の褐変に注意 |  | 【基本技術】健全な苗を用いる育苗箱施薬剤を施用する肥料（窒素分）の適正施用葉いもち【本田中期の病害】ばか苗病（本田）【管理上の注意点】 発病株は発見次第抜き取る採種しない | 【基本技術】穂ばらみ期防除の実施＊要防除水準：穂ばらみ期発病株率早生種：10％以上、中生種：20％以上【管理上の注意点】縞葉枯病発生田では、ヒメトビウンカの越冬幼虫密度を低下させるためほ場を耕起する。【基本技術】白葉枯病に強い品種を選ぶ伝染源となるサヤヌカグサを除去する【管理上の注意点】台風等で、ほ場が深冠水したり、葉に傷がつくような場合、発生に注意白葉枯病紋枯病縞葉枯病（ウイルス病）もみ枯細菌病【管理上の注意点】置き苗を早めに処分する大豆作付跡等、過繁茂な生育のほ場での発生に注意 | 稲こうじ病【基本技術】薬剤によって防除時期が異なるので、適期を逸しない。【管理上の注意点】　　肥料（窒素分）の適正施用【管理上の注意点】上位３葉の葉いもち発生に注意穂いもち発生ほ場では、自家採種しない【管理上の注意点】発生ほ場では、自家採種しない【本田後期の病害】穂いもち【管理上の注意点】過繁茂な生育で発生し易い夏期、高温･多雨の場合、発生が増加し易い【基本技術】葉いもちの発生を抑える穂ばらみ期の防除の実施出穂期前後の防除の実施 | ＊図の長さや位置は主要病害虫の発生時期を示している。○○病○○病○○病○○病

|  |  |
| --- | --- |
| 凡例　 |  |
|  | 天候により発生は変動するが、被害が大きい |
|  | 発生はまれだが、発生すると被害が大きい |
|  | 常発地で被害がでる |
|  | 発生状況に注意する |

 |